

平成26年度 第1回 赤浜地域復興協議会

資料3 デザインノート

1. デザインノートの策定経緯
2. デザインノートの内容

1. 赤浜地区デザインノート策定経緯

- 2013年3月14日
第1回地区別ワーキング会議
- 2013年6月26日
第2回地区別ワーキング会議
- 2013年10月17日
第3回地区別ワーキング会議
- 2013年12月19日
第4回地区別ワーキング会議



デザイン会議以外の会議で頂いた意見も反映しています。

■ 2013年7月21日

赤浜公民館親子座談会

(旧赤浜小学校体育館事務室
〔公民館赤浜分館〕)

■ 2013年7月30日

赤浜公民館ワークショップ

(旧赤浜小学校体育館
〔公民館赤浜分館〕)

■ 2013年12月1日

赤浜広場ワークショップ

(大槌町役場多目的会議室
(旧大槌町学校体育館))

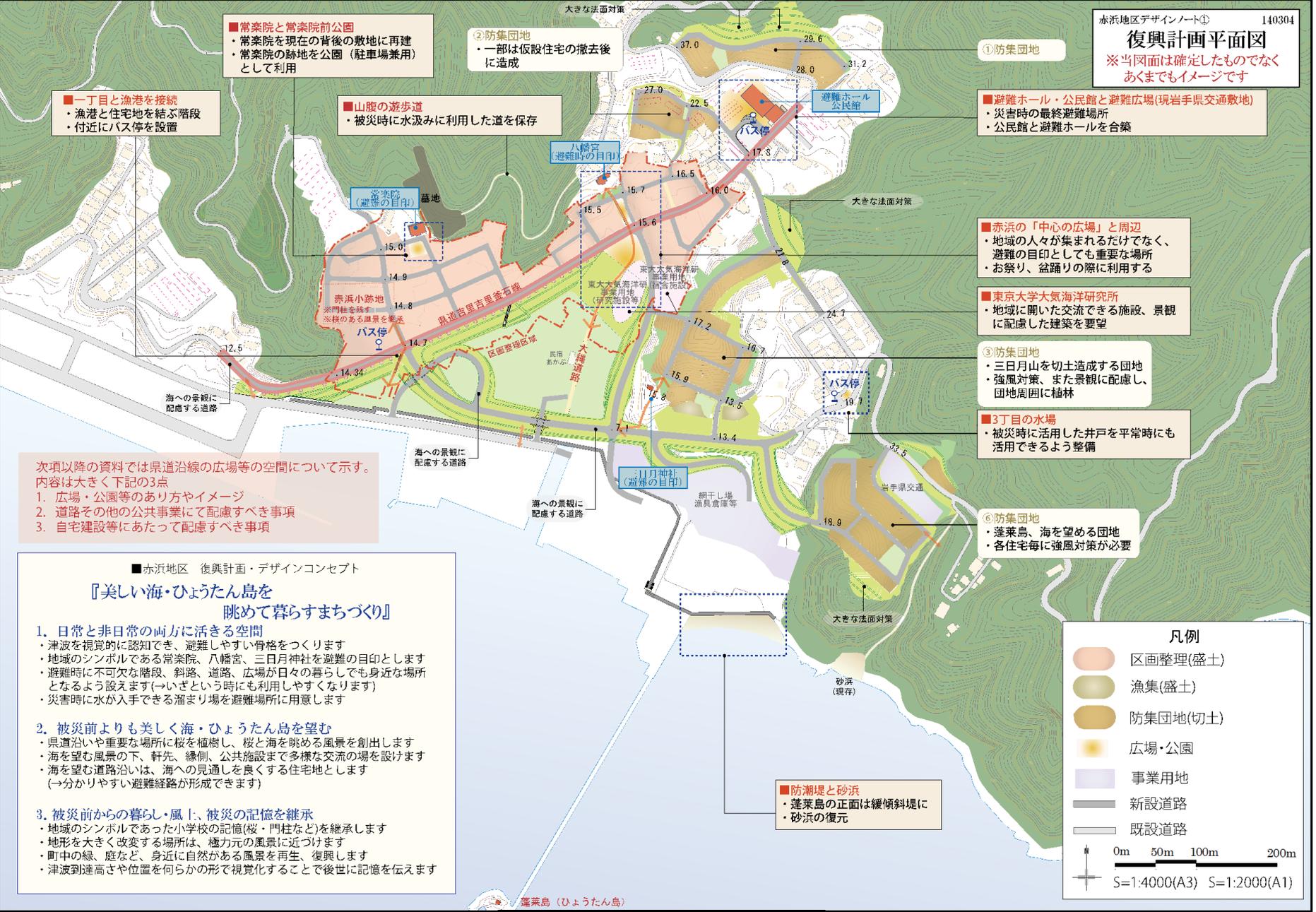


2013年7月30日
赤浜公民館ワークショップ

3. 赤浜地区デザインノート

復興計画平面図

※当図面は確定したものでなくあくまでもイメージです



■一丁目と漁港を接続
 ・漁港と住宅地を結ぶ階段
 ・付近にバス停を設置

■常楽院と常楽院前公園
 ・常楽院を現在の背後の敷地に再建
 ・常楽院の跡地を公園（駐車場兼用）として利用

②防集団地
 ・一部は仮設住宅の撤去後に造成

■山腹の歩歩道
 ・被災時に水汲みに利用した道を保存

■避難ホール・公民館と避難広場(現岩手県交通敷地)
 ・災害時の最終避難場所
 ・公民館と避難ホールを合築

■赤浜の「中心の広場」と周辺
 ・地域の人々が集まれるだけでなく、避難の目印としても重要な場所
 ・お祭り、盆踊りの際に利用する

■東京大学大気海洋研究所
 ・地域に開いた交流できる施設、景観に配慮した建築を要望

③防集団地
 ・三日月山を切土造成する団地
 ・強風対策、また景観に配慮し、団地周囲に植林

■3丁目の水場
 ・被災時に活用した井戸を平常時にも活用できるように整備

⑥防集団地
 ・蓬莱島、海を望める団地
 ・各住宅毎に強風対策が必要

■防潮堤と砂浜
 ・蓬莱島の正面は緩傾斜堤に
 ・砂浜の復元

次項以降の資料では県道沿線の広場等の空間について示す。
 内容は大きく下記の3点
 1. 広場・公園等のあり方やイメージ
 2. 道路その他の公共事業にて配慮すべき事項
 3. 自宅建設等にあって配慮すべき事項

■赤浜地区 復興計画・デザインコンセプト

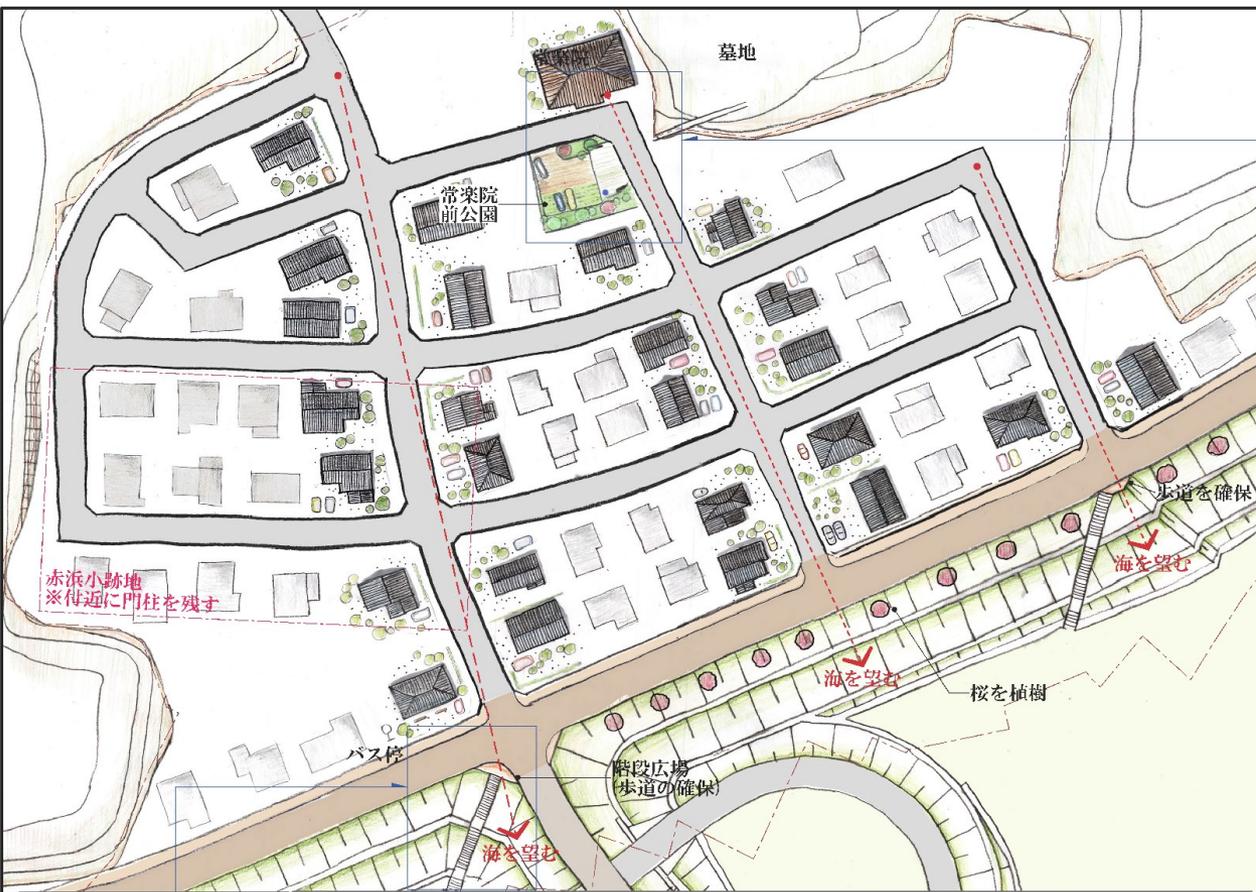
『美しい海・ひょうたん島を眺めて暮らすまちづくり』

- 1. 日常と非日常の両方に生きる空間**
 - ・津波を視覚的に認知でき、避難しやすい骨格をつくります
 - ・地域のシンボルである常楽院、八幡宮、三日月神社を避難の目印とします
 - ・避難時に不可欠な階段、斜路、道路、広場が日々の暮らしでも身近な場所となるよう設えます(→いざという時にも利用しやすくなります)
 - ・災害時に水が入りやすい溜まり場を避難場所に用意します
- 2. 被災前よりも美しく海・ひょうたん島を望む**
 - ・県道沿いや重要な場所に桜を植樹し、桜と海を眺める風景を創出します
 - ・海を望む風景の下、軒先、縁側、公共施設まで多様な交流の場を設けます
 - ・海を望む道路沿いは、海への見通しを良くする住宅地とします(→分かりやすい避難経路が形成できます)
- 3. 被災前からの暮らし・風上、被災の記憶を継承**
 - ・地域のシンボルであった小学校の記憶(桜・門柱など)を継承します
 - ・地形を大きく改変する場合は、極力元の風景に近づけます
 - ・町中の線、庭など、身近に自然がある風景を再生、復興します
 - ・津波到達高さや位置を何らかの形で視覚化することで後世に記憶を伝えます

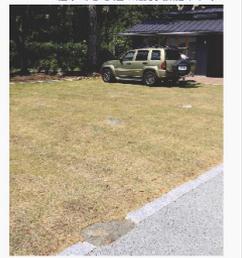
凡例

- 区画整理(盛土)
- 漁集(盛土)
- 防集団地(切土)
- 広場・公園
- 事業用地
- 新設道路
- 既設道路

0m 50m 100m 200m
 S=1:4000(A3) S=1:2000(A1)



- ・常楽院と常楽院前公園を一体的に明るくイメージに
- ・公園は、常楽院の庭のように。常楽院やお墓を利用する際の駐車場も兼用
- ・日常は昼参り、花の水やりにも利用できる井戸を設置(災害時への備え)
- ・駐車場は単にアスファルト舗装とするのではなく、日常では広場と一体的に利用できるデザインに(事例参照)

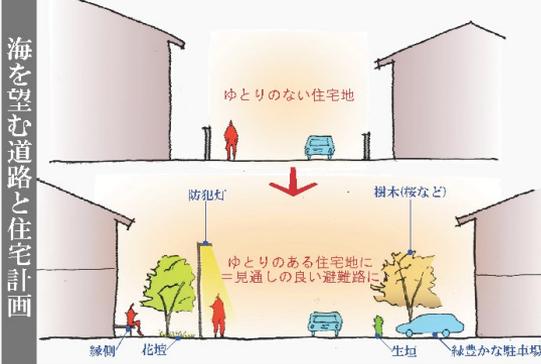


階段と階段広場
一歩道の確保

- ・高齢者も使いやすく、避難時にかげあがりやすい階段
- ・階段と渠道との間には階段広場(歩道)を設け、安全を確保
- ・階段広場(歩道)に転落防止柵を設置する場合は透過性の高い横ビームの製品に

住民意見

- ・渠道から海側に張り出してスペースを作れないか。(A)
- ・一丁目のまちは旧本酒店付近がよい。このあたりは遊歩帯も対岸の町方、小枕方面もよく見える。(B)
- ・駅前部から広場上がる階段には必ず手すりが必要。手すりが必要などことを総合的に考えてきちんと設置できない高齢者は結局、最後に通げられない。(C)



- ・道路から少しゆりを持って住宅を建て、見通しの良い緑豊かな住宅地に(分かりやすい避難路)に
 - ・例えば道路脇を緑豊かな駐車場、庭などに利用。道路沿いは、ブロック塀でなく生垣とするなど。
 - ・優しい明りの防犯灯を設置
 - ・小学校の記憶を継承し、跡地付近に門柱を設置
- 住民意見**
- ・高齢者ドライバーも増えるし、とにかく安全が重要。(C)
 - ・赤浜小の近くの南北道路沿いあたりに桜の木が少し植わった方が、ここに小学校があったというコ印になる。(C)
 - ・小学校の門柱を現在の小学校の門のあたりに残さないか、異定沿いか、7m正路程度の主要な道路の近く、地域の人の目につきやすいところがよい、大きな公園ではなく、小さな場所でも構わない。(C)
 - ・ブロック塀をたてるとしても建ててよい段数を決める。(C)
 - ・ブロックだと暗いイメージになる。(C)
 - ・道路沿いは、花壇、木々、などを設ける。(C)
 - ・色は優しい色で統一したい。(C)
 - ・ゆりのある配置にするのは良い。(C)
 - ・以前は学校の掃子音が暗かった。優しいあかりの街灯が欲しい、災害時にも必要。(C)



■八幡宮裏から広場・海を望む

- 八幡宮下公園
- 八幡宮と大観道路を結ぶ参道空間
- 中心の広場
- 海、ひょうたん島を望む「中心の広場」。消防屯所、東大海洋研と一体的な空間に。八幡宮下公園と一体化する交差点のデザインに。
- 大観道路
- 震災前の暮らしを継承する道

緩やかな斜面(1:6)



住民意見

- 広場と周辺のあり方、配置
- 二丁目の「まちかど」は八幡神社下とする。(B)
- 広場は奥まで海寄りであれば、待ち合わせの場としても他地区から来やすい(B)
- 広場は奥より海寄り、奥の方にあれば安全。子供はきっと逃げ足が速いから少し海側でも大丈夫なのは。(C)
- 震災後、子供が遊びに行く時、雨でも血で逃げているため奥道沿いに遊び場があるのは逃り迎えしやすく良い。(C)
- 宅地も低地部でも上のほうでもなく、赤浜地区の真ん中にあるのがいい。奥道沿い1丁側の宅地内で1地をとるのはもったいないので宅地地に支障がない場所に。(C)
- 広場と周辺のイメージ
- 八幡宮下は、降雨時、鉄砲水が発生するので注意が必要。(A)
- 八幡宮には防火水塔がある。平常的にも水が出ているようなかたちで活用できないか。八幡宮の上からも沢水が流れてくる場合がある。(B)
- 二丁目の「まちかど」は奥八幡神社の下付道に適當だと思われるが、東大海洋研が建つと海が見えないのではない。(A)
- 低地部と評して散歩出来る様にしたほうがよい。(B)
- 自転車や船泊に行く人もいる。(B)
- 広場に水場等は必要なく、ただの広い広場でもよい。(B)
- 買い物できるところが少ないので広場の近くにコンビニがあると良い。地元の人や東大の人も利用できる。以前は赤浜公園の近くに商店があって良く利用した。(C)



赤浜地区デザインノート④

二丁目周辺
復興イメージ平面図

0m 50m 100m 200m 300m

S=1:1000(A3) S=1:500(A1)

※当該図面は確定したものでなく、民間整理地場の公表範囲を前提とした地域住民の現段階の意向をとりまとめたものです。

避難ホール・公民館と避難広場

- 仮設住宅撤去後に広場を建設
- 小学校の記憶を継承し、桜を植樹
- 災害時にも使える水場を分かりやすい場所に設置
- 建物の庇を伸ばし、バス待合場の屋根とする

住民意見

- 施設と周辺の関係
- 旧公民館は駐車スペースが2台分しかなく不便だったので、新しい公民館は駐車スペースを確保したい。(B)
- 有事の際に防災戸として水を確保できることが重要。それが確保できなければ、避難ホールの意味がない。平常にも水がある場所がわかった方がよいのではない。(B)
- バス乗り場の内側の奥と西側の奥の道の交差点の角に水場やあずまやを設けて、休憩できる場とした。(B)
- 運動施設以外にも、プラサントなど、様々な使われ方が可能なのか。(C)
- ここがいきさといきさといきも含めて、まちの真ん中になるというイメージがあって良い。(C)
- バス停は(ここに限らず)屋根付きでないと困る。(C)
- 施設前の『避難広場』
- これまで話し合ったこと(建物内部だけでなく、軒下にも人が集まっていて、それが奥道やバス停からも感じられるような空間構成など)を、ちゃんと描く/書くべき。(C)
- 避難ホール前に広場をつくって欲しい。(C)



広場周辺の住宅計画

- 広場側に背を向けない。
- 正面性を確保。
- 一丈間、大きな窓、庭を(広場側)に設ける等(事例参照)
- 広場周辺にお店、おしゃべりできる縁側等があると賑わいができる

住民意見

- 買い物できるところが少ないので、広場の近くにコンビニがあると良い。地元の人や東大の人も利用できる。以前は赤浜公園の近くに商店があってよく利用した。(C)



参考事例：碧崎公営住宅(遠藤市)

※下記を東大気海洋研究所に要望

- 東大気海洋研究所 研究施設
- 施設の一部を地域に開放。
- 子供達が日常的に立ち寄れて海のことを知れるような「交流」できる施設に。
- 一階に喫茶店ができること望ましい
- 広場、住宅地側から見た高さを住宅2階建て程度に
- 広場、斜面に顔を向けた建物
- 広場と一体的なエントランス空間(舗装材等の統一)
- 東大気海洋研究所 宿泊施設
- 圧迫感のない、住宅地になじむ建物に

住民意見

- 施設内容
- 東大海洋研にも地域で活用できるスペースがあるといい。(A)
- 東大の研究所に、住民が交流したり、利用できる施設があることが望ましい(これまでは海洋研は限定的で住民と交流はなかった)一喫茶室(スタバ)やカラオケルームなど。(C)
- 東大の施設は単に「開放的」な施設とせず、「交流」できる施設にして欲しい。子供達が日常的に立ち寄れて海のことを知れるように。(海の日に行っていた大学の開放をもっと観察に行なって欲しい)(C)
- 東大の屋上に天体望遠鏡が欲しい。(C)
- 施設の高さ
- 海洋研は2階建てであれば、眺めは大丈夫ではないが、海洋研の屋上など、施設の一部を地域に開放してくれるといい。(B)
- 海洋研の建物は海を望む軸に準じているため、海が見えなくなる。あまり大きな建物になるのはよくない。(C)
- 東大の建物は高くしないで欲しい。(C)